

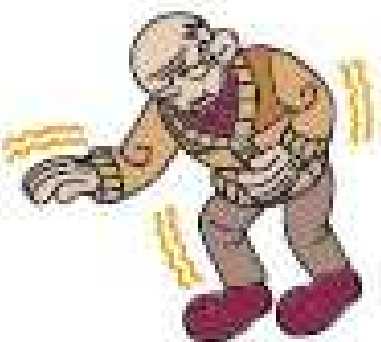


Q：母が狭心症です。今年の冬は寒いですが、気をつけた方がよい事はありますか？
(50代・女性)

A：狭心症は「冠動脈」と呼ばれる、心臓に栄養を送る動脈が狭くなり、血流低下によって心筋が一時的に血流不足に陥り、発作的に胸痛などの症状を起こす病気です。

そのため、心筋が多くの血液を必要とする運動時や、階段や坂道を上がったたり、急いで歩いたりした時に胸痛を起こします。また、運動時以外にも入浴や、トイレで息んだり興奮した時にも発作を起こすことがあります。「狭心症発作が起きやすい」と言われる季

節や時間帯は、冬の寒い日や午前中です。暖かい場所から急に寒い場所に行くと血管が収縮して、発作が起きやすくなるのです。ただし、狭心症が進行して冠動脈がより狭くなると、季節や時間帯に関係なく、軽い運動でも発作が起きるようになり、安静にしてもなかなか治まらなくなってきました。冠動脈の狭細化は、動脈硬化によって起こること



が多いのですが、高血圧・高脂血症・高血糖(糖尿病)・喫煙・肥満などが悪化因子となりますので、注意が必要です。

(岡田俊一・おかだ内科クリニック院長、甲府市北口2-9-12、ニッコー北口駅前ビル2F)

0535・2888・1801